

弥富市事務事業評価シート 平成29年度実施事業対象

No.	26	—	3	事務事業名	生ごみ処理機等設置事業	細事務事業名	生ごみ処理機等設置事業	公的関与	9	シート作成日	平成30年6月7日					
課名	環境課		グループ	清掃対策	担当課長名		柴田寿文		シート作成者名	田口邦郎						
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 1 ソフト事業		<input type="radio"/> 3 整備事業		<input type="radio"/> 5 施設の管理運営		事業運営方法	<input type="checkbox"/> 1 直営		<input type="checkbox"/> 3 全部委託						
	<input type="radio"/> 2 施設の建設		<input type="radio"/> 4 経常的事務事業					<input type="checkbox"/> 2 一部委託		<input checked="" type="checkbox"/> 4 補助等						
総合計画	政策目標	2 快適で安全・安心なやとみ				実施計画		事業の開始・終了								
	施策項目	廃棄物処理等環境衛生の充実				<input type="radio"/> 1 該当		年度 ~ 平成		年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし						
	主要施策	3R運動の促進				<input checked="" type="radio"/> 2 非該当		根拠法令等		弥富市生ごみ処理容器設置補助金交付要綱						
個別計画																
事業の目的	対象(誰を・何を)					意図(どういう状態にしたいのか)										
	生ごみ処理槽及び家庭用生ごみ処理機を購入した市民 (平成29年度より家庭用生ごみ処理機は除く)					家庭から排出される生ごみを、ごみとして焼却処理するのではなく堆肥化することによりごみの減量化を図ります。また、ごみの減量化、3R運動に対する市民の意識を高め、環境にやさしい街づくりおよび循環型社会の形成を目指します。										
事業の内容	生ごみの減量化を促進するために、内容量100リットル以上の生ごみ処理槽を購入した世帯に対し、購入価格の10分の7(上限5,500円まで)、及び家庭用生ごみ処理機を購入した世帯に対し、購入価格の3分の1(上限2万円まで)の補助金を交付します。 (平成29年度より家庭用生ごみ処理機購入に対しての補助金は廃止になりました。)															
成果指標	①	指標名	補助金交付基数				②	指標名								
		指標設定の考え方	生ごみ処理槽および家庭用生ごみ処理機購入に対しての補助金交付基数 (平成29年度より家庭用生ごみ処理機購入に対しての補助金は廃止)					単位	基	指標設定の考え方						
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 ※ 年度	目標平成 30 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 ※ 年度	目標平成 30 年度								
	実績	9	実績	4	目標	※	目標	6	実績		実績		目標	※	目標	
	目標	20	目標	6	目標	※	目標	6	目標		目標		目標	※	目標	
予算費目	会 計	一般会計			款	4	衛生費	項	2	清掃費	目	2	塵芥処理費			
直接事業費			平成 28 年度決算額			平成 29 年度決算額			平成 30 年度予算額							
	国・県支出金			千円			千円			千円						
	地方債			千円			千円			千円						
	その他特定財源			千円			千円			千円						
	一般財源			78 千円			19 千円			33 千円						
	計(A)			78 千円			19 千円			33 千円						
人件費(B)	正職員工数・経費		0.003 人		0.002 人		0.002 人									
			21 千円		14 千円		14 千円									
	臨時職員工数・経費		人 0 千円		人 0 千円		人 0 千円									
全体事業費(A+B)		99 千円		33 千円		47 千円										

PLAN

DO

CHECK	チェック項目					一次評価		一次評価の説明		二次評価					
	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	はい	いいえ	説明	はい	いいえ					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は少ない。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	生ごみ処理機器の普及を通して、ごみの減量化、再資源化を図ることは循環型社会を構築するうえで必要であります。	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性がない。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
		4. 住民ニーズの低下がみられる。または、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	ごみの減量意識をとだえさせないためにも普及に努める必要があります。	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ	
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。					<input checked="" type="radio"/>	はい	<input type="radio"/>		いいえ	<input checked="" type="radio"/>	はい	<input type="radio"/>	いいえ
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っている。					<input type="radio"/>	目標に比べて劣っている		手法的に時間と手間がかかるため、また出来上がったものの使い道が限定されるため、目標を下回っていますが、制度を廃止すべきではないです。	<input type="radio"/>	目標に比べて劣っている			
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていない。					<input checked="" type="radio"/>	あまり上がっていない			<input type="radio"/>	あまり上がっていない			
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成している。					<input type="radio"/>	概ね達成している			<input checked="" type="radio"/>	概ね達成している			
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成している。					<input type="radio"/>	十分達成している			<input type="radio"/>	十分達成している			
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	効率性を追求すべきものではなく、コスト高であっても廃棄物の減量意識の向上のため継続する必要があります。	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ	
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。					<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>		いいえ	<input type="radio"/>	はい	<input checked="" type="radio"/>	いいえ
ACTION	一次評価					二次評価									
	評価点	必要性 4	有効性 3	達成度 2	効率性 4	総合評価 A	必要性 4	有効性 3	達成度 3	効率性 4	総合評価 A				
	今後の方向性	<input type="radio"/> 拡大・充実 <input type="radio"/> 縮小	<input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 統合/終期設定	<input type="radio"/> 方法改善 <input type="radio"/> 廃止/休止	<input type="radio"/> 民間委託等	<input type="radio"/> 拡大・充実 <input type="radio"/> 縮小	<input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 統合/終期設定	<input type="radio"/> 方法改善 <input type="radio"/> 廃止/休止	<input type="radio"/> 民間委託等						
	当面の課題	生ごみ処理槽を設置しても、たい肥になるまで時間と手間がかかるため、途中でやめてしまう人もいます。また、たい肥を利用できる農地(畑)の確保も必要です。					二次評価での指摘事項(部長の総括意見)								
	課題解決のための改善計画	循環型社会形成の必要性を啓発し、引き続き生ごみ処理槽などの設置補助についてはホームページで紹介し、併せてたい肥受け入れの農地の呼びかけも必要です。					市では、家庭から出る生ごみの自家処理を進め、ごみを減量化するために市民の方が生ごみの処理槽を購入した際に本補助事業を実施していますが、依然としてごみは増加の一途です。循環型社会の形成を目指すためには、地道ではありますが、継続的に本事業を進める必要があります。								
	備考														